



## Google Next Tokyo 2023に参加しました。

2023-12-20 17:00 ▲ Furuta Hikaru

AI, IoT, Tech, Event

Engineering Blogをご覗頂きありがとうございます！FORXAI事業統括部 アーキテクチャ開発部の古田です。今回は2023年11月15,16日に東京ビッグサイトで開催されたgoogle cloud next Tokyoに参加したときの様子について紹介したいと思います。

目次 [非表示]

1.はじめに

2. Next Tokyoの気になった内容

2.1. 基調講演について

2.2. PaLMについて

2.3. AppSheetについて

2.4. 展示会の様子

2.5. TPU v5eについて

3.おわりに

### はじめに



Google Cloud Next Tokyoとは、googleが主催する国内最大級のイベントであり、GCP(Google Cloud Platform)をはじめとするクラウド技術に関する最新の情報をセッションや展示会を通して楽しめるイベントです。

開発者からCEOまで、クラウド テクノロジーを使ったビジネス課題の解決を探求するすべての方向けに毎年開催されています。

コロナの影響もあり、東京でオンラインで開催されるのは実に4年ぶりだったそうです。

Googleの新技術や、大規模言語モデル、生成AI等の最新情報が多数報告されていました。

本記事では、その一部を紹介させていただきます。

### Next Tokyoの気になった内容

#### 基調講演について

二日間にかけて行われた本イベントでは、両日ともに基調講演のセッションがあり、流行りのテクノロジーに関する情報や、各企業代表による今後の技術展開に関する見通しが語られていました。

一日目の基調講演では、今注目の生成AIに関するお話を、AIや機械学習を用いた最新のプロダクト情報についての講演でした。今現在すでにGoogle Cloud の生成AIソリューションを利用している多くの企業リーダーが、その内容や成果について紹介されました。

二日目の基調講演では、今後のエンジニア・開発者のクラウド活用様式の変遷予想が、最新の情報を踏まえた様々な視点で解説されました。さらに、ベンチャー企業やエンターブライズのcloud活用について、各社の代表がその戦略と成果を紹介されました。

基調講演のアーカイブはイベントページからご覧になれるので、以下に紹介しておきます。

google cloud nextイベントページ：<https://cloudonair.withgoogle.com/events/next-tokyo>

#### PaLMについて

PaLMとは、Googleが提供する大規模言語モデル（LLM）です。PaLMの特徴の一つとして、責任あるAIの実現に向けた様々な機能を備えていることが挙げられます。特に、返答の説明性に焦点を当てた機能が素晴らしいと思いました。PaLMには、ユーザーからの質問への返答時、ハルシネーション（意図しない出力や予期せぬ結果）を防ぐため、なぜそのような返答になったのかを説明する機能があるそうです。デモでの例では、Pythonコードの生成をPaLMに依頼した場合、返答の根拠として参考となるGitHubのレポジトリが提示されていました。この機能により、PaLMが生成した返答の根拠を透明化し、ユーザーがその内容を理解する手助けを行うことができます。

さらに、PaLMでは独自の文書や情報を学習させることも可能です。特定の文書（PDFなど）をPaLMに登録し、それを返答の根拠として用いることができます。例えば、社内規則に関するシステムを構築する際、PaLMに社内規則を学ばせることで、規則に基づいた情報の提供が可能になります。また、登録された文書はシステムにおいて適切に保護され、セキュリティが確保されているとのことです。これらの機能を通じて、PaLMは透明性と信頼性を高め、ユーザーが生成された返答をより正確に理解し、適切に活用できるようにサポートしてくれているそうです。

GoogleのPaLMについては以下のリンクをご参照ください。

<https://japan.googleblog.com/2023/05/palm-2.html>

#### AppSheetについて

AppSheetは、コーディングを必要とせずにカスタムアプリを作成できるプラットフォームです。ユーザーはGoogle Sheetに必要な情報を記入し、AIとのチャットベースのやり取りを通じて簡単にアプリを作成できます。

私が見た実演では、お城周りのアプリを作成する内容で、Google Sheetにはお城の名前や住所が記載されており、観光目的でお城めぐりをしたい旨をチャットで入力すると、AppSheetがそれに応じてリストにお城の公式HPのURLを追加し、Google Mapと連携したアプリを作成していました。このアプリでは、お城を選択するとその場所や到達までの所要時間が分かり、さらにはリンク先のお城の公式HPにもアクセスできる仕組みになっていました。

このように実用的なアプリが簡単にコーディングせずに短時間で出来ることに驚きました。

GoogleのAppSheetについては以下のリンクをご参照ください。

<https://cloud.google.com/appsheet?hl=ja>

#### 展示会の様子

展示会の開催は東京ビッグサイトで二つのホールを利用し、かなり大規模でした。

Googleさんから無料でお弁当を頂けたり、Ryzenでお馴染みのAMDさんが会場内でカフェを開設していました。対話式展示会を楽しめるサービスが多款ありました。

(AMDさん主催のカフェスペースの様子)

展示会のすぐ隣では、暗転したホールに照らされたステージとスクリーンのよきみるセッションスタイルで講演が常に行われていました。すべてオンラインではありませんが、貸出された無線レシーバーとヘッドセットで集中して聞くことが出

#### TPU v5eについて

今回のNext Tokyoでの目玉の一つでもある最新のTPUについて、関連のセッションと展示がたくさんあったので、少し紹介させていただきます。

まずTPUとは、Tensor Processing Unitの略称で、機械学習に特化した高コンピューティングのプロセッサです。よくプロセッサの話をすると、純粋な処理速度での良し悪しを判断してしまうのですが、使用料金に対してのパフォーマンス効率が、AWSをはじめとする他クラウドサービスのコンピューティングプロセッサに比べて、かなり高いものを実現できたとの報告がなされていました。

TPU v5eでは、「マルチスライス」という技術が用いられています。この技術により大規模言語モデル等の非常に大きい処理も従来に比べて非常に高速で実行できるようになりました。

詳しくは公式の説明ページをご覗ください。

(実際のTPU v5eのイメージ)

### おわりに

本記事では、Google Cloud Next Tokyo 2023について紹介させていただきました。

今回、日本での開催が四年ぶりのGoogle Cloud Nextでしたが、来年も横浜で開催されるそうです。今年は大規模言語モデルや生成AIが話題になっていましたが、来年はどんな新技術が主流になってくるのか非常に気になります。普段の開発職では、業務で使わない新技術のキャッチアップの時間があまり取れないで、こういったイベントは今後も積極的に参加していきたいと思います。紹介内容にご興味があれば、ぜひお問い合わせください。

最後までご覧いただき、ありがとうございました。

この記事に関する情報については以下のリンクをご覗ください。

[新卒採用情報 - 採用情報 | コニカミノルタ](#)

コニカミノルタの新卒採用サイトです。募集要項や募集職種などの採用情報から、プロジェクト紹介、社員インタビューなどを掲載しています。

KONICA MINOLTA

KONICA MINOLTA

### Furuta Hikaru

FORXAI事業統括部 アーキテクチャ開発部 所属 機械学習のモデルの運用管理システム等の開発を行っています。

前の記事

FORXAIパートナー・アメニティ技術紹介：属性ベース確

認

認

次の記事

自律移動ロボットに関するイベント「つくばチャレンジ

2023」に参加してきました

2

シェアする

X ポスト

B! ブックマーク

Pocket

いいね!

LINEで共有

LINEで共有